詠む広場

毎日俳壇

西村　和子　選

坑道を出て錦秋の山眩し
弥富市　富田　範保

△評▽「錦秋」とは紅葉が錦のように美しい季節の美称で、大げさな句になりがちだが、暗闇との対比を描いて成功した。

山上湖一気に紅葉至りけり
富士市　後藤　秋邑

△評▽標高の高い地では一晩の気温差で、紅葉が進むことがある。驚きが伝わってくる。

漠然と侘しさつのる夕時雨
春日市　林田　久子

伊賀富士を遥かに置いて夕焚火
伊賀市　福沢　義男

健啖の句敵五人ぼたん鍋
志木市　谷村　康志

柿捥いで下で待つ子に投げ渡す
羽生市　岡村　実

落柿舎を出でて仰ぐや時雨虹
兵庫　小林　恕水

艶残る今日の落葉を拾ひけり
横浜市　斎藤　山葉

花八手雲にとけゆく昼の月
野洲市　宮田絵衣子

子の為に歌い尽くすや星月夜
須崎市　野中　泰佑

井上　康明　選

木枯を分けてキリンの首歩む
平塚市　日下　光代

△評▽木枯らしは冬を告げる北風。アフリカからやって来たキリンは意に介さず、首を揺らし風を分けるように悠然と歩いていく。

雑踏の奥へ奥へと十二月
東久留米市　矢作　輝

△評▽12月は何かとせわしない季節。雑踏をついて、街の奥へさらに奥へとひたすら進む。

小春日や声の大きな草野球
長崎市　鶴田　鴻己

熱の子に林檎半分すり下ろす
姫路市　宗平　真実

小春日や杖一本の医者通ひ
坂戸市　沼井　清

コンバイン稲穂の波を呑みゆける
弥富市　富田　範保

時雨るるや貨物列車の連結音
国立市　佐藤　建

漱石忌我に宿痾の一つあり
湖西市　宮司　孝男

あれが子のダンクシュートや冬麗
島根　重親峡人利行

冬帽や遠巻きに聴く駅ピアノ
明石市　増田　良子

片山由美子　選

読めぬ本読まぬ本あり秋の雨
奈良市　浦城　亮祐

△評▽読めぬか読まぬかどちらにしても、読まずに積み上げられた本を思う。降り続く秋の雨がいささか憂鬱な気分を感じさせる。

神鶏の小屋を覗きて七五三
和歌山市　太田　妙子

△評▽好奇心たっぷりの年ごろ。境内をあちこち駆け回り、小屋にいる神鶏まで見つけたのである。

山茶花の散りても花の減りもせず
西宮市　上田　佳子

寒雷やサックスに吹き込みし息
雲南市　熱田　俊月

寒蘭や法事の前の靴磨き
東京　菊池　和正

凩や母国に遠きカフェにて
東広島市　福岡　宏

それぞれがそれぞれの年惜しみけり
龍ケ崎市　小宮　光司

山茶花や散り敷くほどに華やぎて
大阪　池田　壽夫

鳴き止まぬ犬を叱る夜そぞろ寒
藤沢市　青木　敏行

初冬や百葉箱に松の影
長浜市　中島　正則

小川　軽舟　選

双塔の西は明るし片時雨
葛城市　久保　政子

△評▽作者の投句地から当麻寺の古塔だと思われる。西から雨があがりはじめた。その明るさが西方浄土を思わせる。

黄落や平日に行く美術館
徳島　坂尾　径生

△評▽平日に行ける身になったのだろう。うれしくもあり、少しさびしくもある。

老後てふ引き込み線や初時雨
茅ケ崎市　浜本　文子

炊き出しの湯気や勤労感謝の日
国分寺市　野々村澄夫

山小屋の眠りは深し天の川
仙台市　伊藤　和彦

母のつくる炒飯秋の昼下がり
直方市　大石　聡美

街路樹に青松虫や屋形船
福岡市　三浦　啓作

寒禽やコンビニ一つ寺二つ
羽曳野市　鎌田　武

カーディガンはおり洋画の女ぶる
日向市　内田　遊木

風化してやさしき地蔵冬隣
山形　佐藤美和緒

ことばの五感

戦車を描く

川野里子

・左手と右手のミニカー衝突す加速もブレーキもなく「戦争」　川口慈子

幼稚園の頃の忘れられない思い出に、クレヨンで描かれた赤い火がある。私の隣に座っていた男の子がほとんどいつも同じ絵を描いていた。鏡餅のように大小の楕円を重ね、上に描いた小さい楕円の端から棒を突き出させる。その棒の先から赤い火が噴き出していた。今から思うに、あれは戦車だったのだと思う。

その子は本当に戦車ばかりを描いていた。先生が「他のものも描いてみようね」と言うと、鏡餅は3段重ねになり、突き出る棒が2本になり、赤い火に黒い煙が加わって盛大に噴き出した。ぐるぐるぐるぐる噴き出したクレヨンの煙に見とれていると、勢い余って私の画用紙にも侵入し、赤いクレヨンの火と煙の筋が走り始めた。慌てた先生が彼のクレヨンを取り上げると、男の子は自分の両手で拳を作り、ぶつけ合わせながら「バーン！ボーン！」と声を上げた。

半世紀ほどもたった今、私はあの子の隣に座り直したいと思う。私の画用紙とあの子の画用紙をくっつけ、あの子のクレヨンの暴れるままに描かせればよかったと思う。そして私は私の絵をそこに描いてゆけば良かったのだ。四角に三角を重ねた家と、リボンを付けた人形がにっこり笑っている絵を。

あの子が戦車として描いた怒りや寂しさを今、思う。そして幻の合作を想像してみる。火を噴く戦車と長閑な家と人形の共存。それは、世界のあちこちで戦争を体験した子供たちが描く絵と似ているかもしれない。（かわの・さとこ＝歌人）